



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(222)7207番

93.3.29 No. 3766

怒りの強制配転者を職に戻せ!

4.12ストへ

3.25-4.12
に向けて

3.25 総決起集会知名結集

三・二五第二波ストライキは、九三春闘勝利—大幅賃上げ獲得・格差拡大粉砕、強制配転者の減職奪還実現を柱に、春季第二波闘争として、営業から強制配転者一六名、そして検修関係日勤者六七名、合計八三名が時限ストライキに立ち上がった。その熱気を胸に開催された、千葉市民開館での「三・二五スト貫徹集会」は、立錐の余地がない程の組合員三二〇名が結集する、この間の怒りの大きさを示すものとなった。

中野委員長あいさつ要旨

今春闘の、基幹産業のベースアップは昨年比一%程度の減—「不況」を理由とした賃金か雇用かという中で、資本ペースで終わつつある。九三年物価上昇率は二・一%、定昇が二%、つまり四%の大台にのらなければ実質賃金とならず、生活水準に満たないのだ。四〇年にわたる春闘の中で、二番目に低い率—三年連続して前年対比のマイナス傾向であり、「連合」を打倒しない限り、景気のいい時はおだてられ、悪くなると首切りが現実のものとなる。九三春闘が契機となって、労働者の権利を貫徹していくことを真剣に追求

での五名の解雇無効判決後初めての集会である。司法の反動化の中、それでも二八名中半分(一七名、二波五名)の解雇無効が示す物事の筋道は、全員の解雇が不当であり、動労千葉を潰すための解雇権乱用であったということだ。解雇撤回闘争の半分は勝利をさらに拡大し、あらゆることに決着を迫っていかねばならない。

今春闘の特徴は、全産業にわたる大合理化攻撃の嵐の中での春闘だということだ。JR西日本で発表された七〇〇〇人の雇用調整は、いよいよ首切り攻撃がJRで開始されたことを告げている。

今春季第一〜三波ストの目標は、①、大幅賃上げ獲得—本場の労働時間短縮の実現、②、貨物格差攻撃粉砕、③、一切の不当労働行為粉砕、

④、反合・運転保安確立、であり我慢に我慢を重ね、堪忍袋の緒が切れた闘いである。強制配転者の問題は、この一年間下駄を預けてきた経緯を、またも反故にしてきた。人事までJR総連に操られるJR体制の中にこそ、その末期症状を見てとることが出来る。夕ガが外れてきている状況から言っても、動労千葉ソフトなど長続きしないことは明白だ。JR結託体制を打ち破る意味は、限りなく大きい。

二月一八日に強行された駅夜間無人化は、列車運行そのものの仕組みを壊すものであり、社会的にも明らかにしていかなければならない。又、三六協定の、四月一日以降破棄による当局に与える打撃は大きい。年休も取れず、休日出勤を前提とした要員配置を、この問題を通して打開しようではないか!

PKO—既成事実の積み重ねを、三・二八三里塚—四・七北海道現地闘争の爆発を通して打倒して、「こう」と力強く提起した。

続いて、特別報告として第二波公判原告である、勝浦支部元支部長・鶴岡さん、館山支部支部長・笹生さんより、全員の解雇撤回まで闘う決意が表明され、春季第二波スト決起者代表と各支部からの決意表明を受け、四・一〜二春季第三波ストライキへの総決起体制が確立された。

(決意表明の項、後日詳報予定)
全解雇者の奪還—「JR体制」打倒—「分割・民営化」の矛盾転嫁粉砕は、われわれの闘いの軸をなすものである。

国鉄労働運動の真価と進化をかけた、春季第三波ストに進撃しよう!